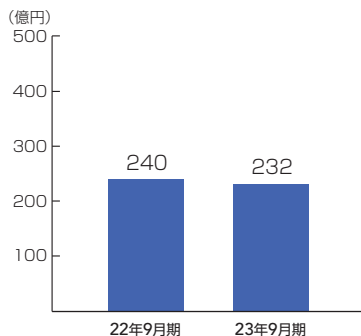
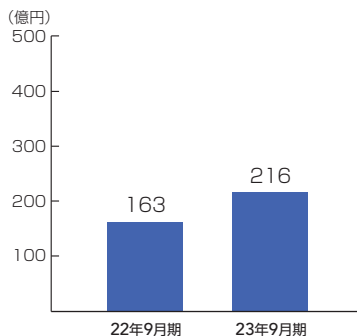


損益の状況 (単体)

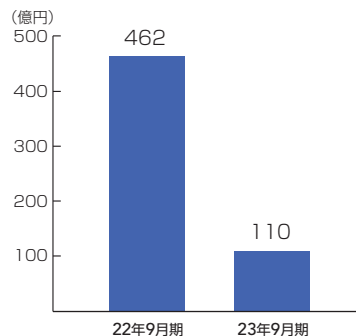
●コア業務純益



●経常利益



●中間純利益

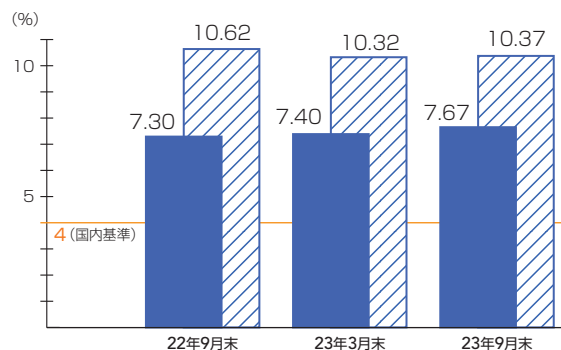


自己資本比率の状況

●自己資本比率・Tier I 比率

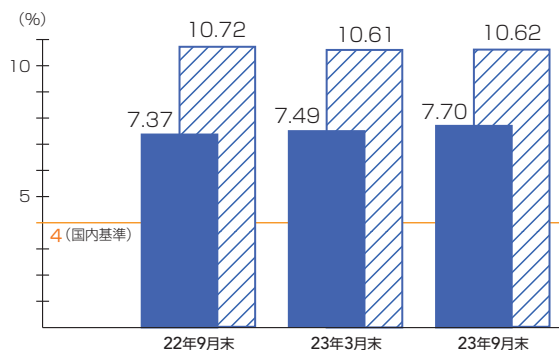
[単体]

自己資本比率
うちTier I 比率



[連結]

自己資本比率
うちTier I 比率



用語説明

コア業務純益

預貸金業務などによる“資金利益”や投資信託等の販売手数料などの“役務取引等利益”などを含む“業務粗利益”から“経費”を差し引いたもので、銀行本来業務の収益力を表す指標として一般的に用いられています。

$$\text{コア業務純益} = \text{業務粗利益(除く国債等債券損益)} - \text{経費}$$

自己資本比率

銀行の健全性を示す指標のひとつです。
国内基準で4%以上を維持することが求められています。

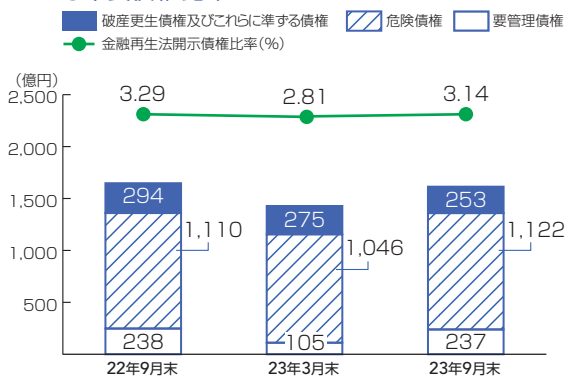
$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本(資本金など)}}{\text{リスク度を考慮した資産}}$$

Tier I 比率

自己資本のうち資本金・資本剰余金・利益剰余金などの基本的項目をもとに算出される自己資本比率です。

不良債権の状況 (単体)

●不良債権比率



(注) 平成23年3月末までは当中間期中に清算した分割子会社 (NCBターンアラウンド株式会社) の計数を含めております。

用語説明 ~金融再生法による開示債権の定義~

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

危険債権

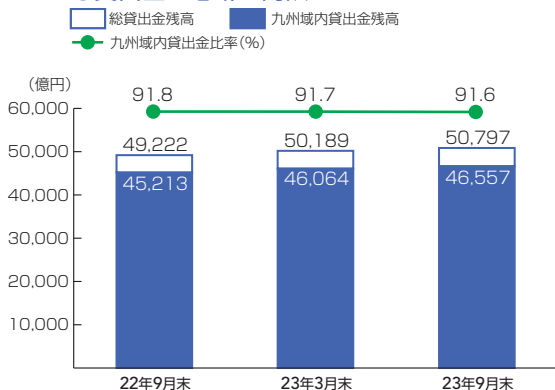
債務者が、経営破綻の状態には至っていないものの、財政状態・経営成績が悪化し、契約通りの返済を受けることができなくなる可能性の高い債権

要管理債権

3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権

貸出金の状況 (単体)

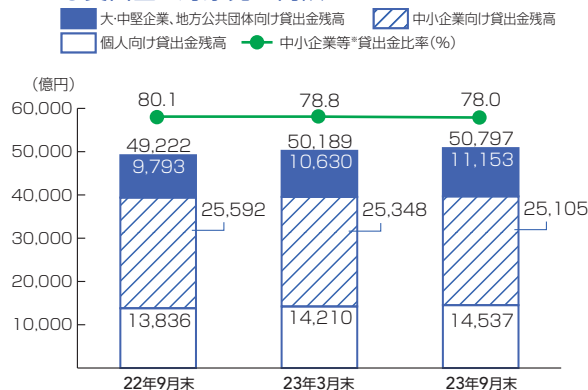
●貸出金と地域の内訳



※中小企業等…資本金3億円 (但し、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円) 以下の会社または常用する従業員が300人 (但し、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人) 以下の企業等

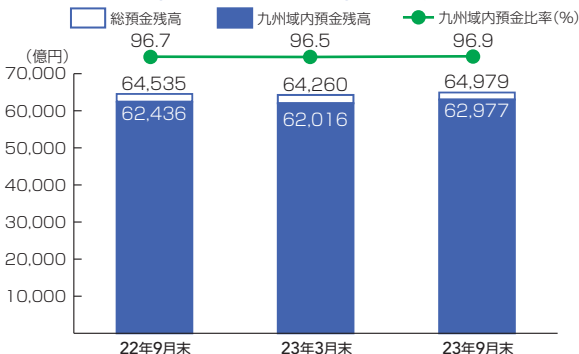
(注) 平成23年3月末までは当中間期中に清算した分割子会社 (NCBターンアラウンド株式会社) の計数を含めております。

●貸出金と対象先の内訳

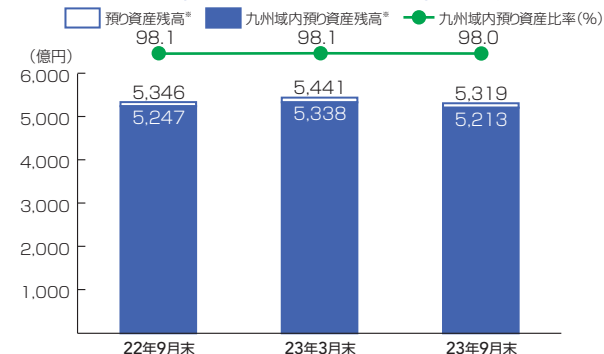


預金・預り資産の状況 (単体)

●預金 (譲渡性預金を含む) と地域の内訳



●預り資産 (投資信託・個人年金保険) と地域の内訳



※預り資産残高 = 投資信託残高 + 個人年金保険販売累計額